

科目ナンバリング													
授業科目名 <英訳>		外国文献研究（全・英）-E1：人間言語の誕生を科学する Readings in Humanities and Social Sciences (All Faculties, English)-E1 :The Emergence of the Human Language Faculty					担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 藤田 耕司				
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		外国文献研究			使用言語		日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数		1コマ	授業形態		演習（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	火4			配当学年	2回生以上	対象学生	全学向			
【授業の概要・目的】													
言語は現生人類だけが持つ生物学的形質であり、思考とコミュニケーションをはじめ、人間の知的活動の大部分を支えている。この言語が人類進化において最初どのようにして誕生したかは永遠の謎とされてきたが、近年の学際的な進化言語学 (evolutionary linguistics) の発展により、次第にその経緯が明らかになってきた。この授業では、言語の起源・進化研究の経緯や展望を学び、人間とはこういった種であるのかを考える。													
【到達目標】													
比較的平易な英文テキストを速読形式で読み進め、言語進化という問題に対する理解や関心を深める。また従来は文系の学問だとされた言語学が、今や自然科学系を巻き込んで学際的な分野として発展しているという現状を把握する。													
【授業計画と内容】													
毎回、テキストを読み進め、言語の起源・進化を巡ってどのような研究が行われ、何が分かったか未解決の問題は何かを理解する。言語学だけでなく、進化生物学や比較認知科学、遺伝学、脳科学、人類学、霊長類学など関連する多くの他分野にも触れる。受講者にはパラグラフごとに要点をまとめて授業中に報告してもらう場合がある。扱う主なトピックとして以下のものがある。 ・類人猿先史 ・氏と育ちと言語（遺伝子と文化、本能と学習、言語とは？） ・前言語的概念（今・ここを超える、抽象的思考へ） ・強力な文法エンジンの構築（シンタクス、最初はトリのように歌っていた？） テキストは平易な入門書であるが、専門用語も少なくないので、十分な下調べが必要である。映像なども併用し、変化のある授業を心がける。													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
授業への積極的な参加度 (30%)と定期試験（70%）に基づく。													
【教科書】													
James R. Hurford 『The Origins of Language: A Slim Guide』（Oxford University Press）ISBN:978-0198701880（ペーパーバック版を使用）													
----- 外国文献研究（全・英）-E1：人間言語の誕生を科学する(2)へ続く -----													

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業では和訳はできるだけ避け、内容についての考察や(批判的)検討が中心になるので、英語について分からない箇所などはあらかじめチェックしておき、授業で確認することが望ましい。

【その他(オフィスアワー等)】